

高等学校通信教育の質の確保・向上のためのガイドライン

本ガイドラインは、高等学校通信教育の質の確保・向上を図るため、通信制の課程を置く高等学校（以下「実施校」という。）における主体的な学校運営改善のための取り組みや、所轄庁における実施校に対する指導監督の際に参照すべき指針として策定するものである。

実施校においては、校長及び教員の資格、学校の管理運営、施設・設備、学科及び教育課程、入学・退学・転学等の事項について、学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）その他の関係法令を遵守するとともに、特に以下の点に留意して学校運営を行う必要がある。

1. 学校の管理運営に関する事項

(1) 教職員の配置等

- ① 実施校の設置者は、高等学校通信教育規程（昭和 37 年文部省令第 32 号。以下「通信教育規程」という。）第 2 条に規定する添削指導、面接指導、多様なメディアを利用した指導及び試験について、各教科の教員免許状を取得している実施校の教員により行うことができるよう、教員配置を行うこと
- ② 実施校の設置者は、不登校経験や中途退学その他多様な課題を抱える生徒一人一人の事情に寄り添ったきめ細かな指導を行うことができるよう、教員配置の充実を図ること
- ③ 実施校の設置者は、事務職員の配置等による学校事務体制の整備に努めること

(2) 連携施設との適切な協力・連携関係の確保等

- ① 協力校（通信教育規程第 3 条第 1 項に定める高等学校（中等教育学校の後期課程を含む）をいう。）、技能教育施設（学校教育法第 55 条に定める技能教育のための施設をいう。）、サポート施設（学校教育法その他の関係法令に基づくものではない、生徒を学習面や生活面等で支援する民間施設）その他の施設（以下「連携施設」と総称する。）と協力・連携を行う実施校の設置者は、これらの連携施設との協力・連携について担当する教職員を配置し、定期的に訪問するなど、適切な協力・連携関係の確保に努めること
- ② 実施校の設置者は、連携施設と協力・連携を行う場合は、その協力・連携内容について、連携施設の設置者とあらかじめ文書による取り決めを行うこと
- ③ 添削指導、面接指導、多様なメディアを利用した指導、試験及び生徒の履修状

況の把握・確認その他生徒の成績評価や単位認定等に関わる業務（以下「添削指導等」という。）は、連携施設の職員など実施校の校長の監督権が及ばない者に実施させることなく、実施校の教職員が行うことⁱ

- ④ 連携施設に実施校の教員を派遣・配置したり、連携施設に勤務する各教科の教員免許状を有する職員に対して、兼務発令等により実施校の教員としての身分を付与し、実施校の添削指導等を行わせたりする場合、添削指導等が実施校の校長の監督下、実施校の設置者の管理責任の下で行われること、及び実施校と連携施設の業務が渾然一体とならないことを担保するための適切な措置を講じること

具体的には、例えば、契約書や委嘱状その他の書面により、連携施設の職員が行うべき業務内容を明確に定めること、実施校の方針に従い教育活動を行うことができるようマニュアルを整備することや、連携施設における実施校の業務の管理を行うための専任の担当教職員を置くことなど、管理運営上、一層の工夫を行うよう留意することⁱⁱ

- ⑤ 生徒募集等の際に、実施校が行う高等学校通信教育と連携施設が独自に行う活動との区別を明確に説明するなど、実施校と連携施設の関係について、実施校としてあらかじめ生徒・保護者に十分な説明を行うこと。また、連携施設において、連携施設が高等学校の施設であると誤解させたり、連携施設の独自の活動等を受講することが高等学校を卒業するために必ず必要となるかのように説明したりするなど、不適切な勧誘等が行われないようにすること。授業料等についても、実施校が行う高等学校通信教育に係る授業料と連携施設が独自に行う活動等に係る費用の区別について、生徒・保護者に適切かつ明確な説明が行われるようにすることⁱⁱⁱ

- ⑥ 連携施設において、実施校の名称のみを掲げた看板を設置したり、実施校を「本校」、連携施設を「キャンパス」と称して生徒・保護者に説明したりするなど、連携施設が実施校の施設であるかのような誤解を招くことのないように留意すること。上記④の方法による場合においても、当該施設は、実施校とは連携等の関係にある施設であって、実施校の施設ではないことが明確になるようにすること

- ⑦ 実施校において、自校の施設として添削指導等を行う施設を設置する場合であっても、上記①から⑥の趣旨を踏まえ、適切な学校の管理運営に資するよう留意すること^{iv}

(3) 学校評価

- ① 教育活動その他の学校運営の状況について、本ガイドライン及び「学校評価ガイドライン〔平成 28 年改訂〕」（平成 28 年 3 月 22 日、文部科学省作成）等を踏まえ、少なくとも 1 年度間に 1 回、自己評価を行い、その結果を公表すること。また、評価結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めること。また、教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を積極的に公開すること
- ② 学校関係者評価の実施に努め、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めるとともに、必要に応じ、第三者評価を実施すること

(4) その他

- ① 編入学による生徒の受入れに当たっては、編入学を希望する生徒が在籍し、又はしていた教育機関について、法令上、編入学が認められるかどうかを確認するなど、適切に処理すること。また、学期の途中で転入学・編入学を受け入れる際には、前籍校における学習状況等を十分に確認した上で、下記 2 の教育課程等に関する事項を踏まえ適切な教育を行うこと
- ② 高等学校入学者選抜の日程については、各都道府県において公・私立の高等学校及び中学校の関係者による協議等を経て定められていること、高等学校入学者選抜は、中学校の教育活動の成果を十分評価することができる資料及び時期により行われるよう特に配慮することが必要であることを踏まえ、入学者選抜及びその結果の公表は適切な時期に行うこと。また、連携施設において、不適切な時期に生徒・保護者に対して実施校への入学が決定したかのような説明がなされないようにすること
- ③ 実施校において、学校教育法施行規則（昭和 22 年文部省令第 11 号）第 28 条第 1 項各号に定める表簿等を備えているとともに、同条第 2 項に定める期間、適切に保存すること。また、生徒情報の適切な管理等に努めること
- ④ 高等学校等就学支援金の代理受領等の事務を適正かつ確実に執行するとともに、生徒募集等に当たって、高等学校等就学支援金が、例えば、学校独自の特典や授業料軽減策であるかのような不適切な表示を行わないことはもとより、授業料や高等学校等就学支援金、奨学金等の取扱いについて適切に表示すること^v

2. 教育課程等に関する事項

(1) 教育課程及びそれに基づく指導と評価

- ① 通信制の課程においても、高等学校教育として、教育基本法（平成 18 年法律第 120 号）、学校教育法、高等学校学習指導要領（平成 21 年文部科学省告示第 34 号。以下「指導要領」という。）等の教育課程に関する法令に従い、適切な教育課程を編成すること
- ② 教育課程の実施に当たっては、指導要領及びその解説を踏まえ、各教科・科目、総合的な学習の時間及び特別活動（以下「教科・科目等」という。）のそれぞれについて、指導目標、指導内容、指導の順序、指導方法、使用教材（教科用図書等）、指導の時間配当等を具体的に定めた指導計画を作成すること
- ③ 学習評価に当たっては、「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」（平成 22 年 5 月 11 日文部科学省初等中等教育局長通知）に示す評価の観点及び趣旨を十分踏まえながら、それぞれの教科・科目等のねらいや特性を勘案して、具体的な評価規準を設定するなど評価の在り方を工夫すること
- ④ 単位修得の認定は、教員が行う平素の学習評価に基づいて、最終的に校長が行うこと。校長は、学校があらかじめ定めた卒業までの修得すべき単位数を修得した者で、特別活動を履修しその成果が目標からみて満足できると認められる生徒について、全課程の修了を認定すること
- ⑤ 指導と評価に当たっては、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに特に意を用いることとされている（学校教育法第 30 条第 2 項等）ことを踏まえ、通信制の課程においても、これに基づき適切な教育が実施されるよう教育活動の工夫を図ること
- ⑥ 集団活動の場として欠かすことのできないホームルーム活動をはじめとした特別活動の重要性に鑑み、年間指導計画に基づき、特別活動について卒業までに 30 単位時間以上指導すること

(2) 添削指導及びその評価

- ① 添削指導及びその評価は、各教科の教員免許状を取得している実施校の教員が行うこと
- ② 指導要領において定める添削指導の回数の標準を踏まえて、各教科・科目にお

ける添削指導の回数を十分確保すること

- ③ 総合的な学習の時間の添削指導の回数については、指導要領第4章総合的な学習の時間の規定を踏まえ、その回数を適切に定めること
- ④ 添削指導においては、生徒の学習の状況を把握し、生徒の思考方向のつまづきを的確にとらえ指導していくこと。このため、例えば、マークシート形式のように機械的に採点ができるような課題や、択一式の問題のみで構成される課題は不適切であること
- ⑤ 添削指導に当たっては、正誤のみの記載ではなく、必要な解説等を付すこと

(3) 面接指導及びその評価

- ① 面接指導及びその評価は、各教科の教員免許状を取得している実施校の教員が行うこと
- ② 指導要領において定める面接指導の単位時間数の標準を踏まえて、各教科・科目における面接指導の単位時間数を十分確保すること。面接指導の授業の1単位時間を弾力化する場合でも、1単位時間を50分として計算された単位数に見合う面接指導の単位時間数を十分確保すること
- ③ 総合的な学習の時間における面接指導の単位時間数については、指導要領第4章総合的な学習の時間の規定を踏まえ、観察・実験・実習、発表や討論などを積極的に取り入れるためには、面接指導が重要となることを踏まえ、その単位時間数を適切に定めること
- ④ 面接指導においては、個別指導を重視して一人一人の生徒の実態を十分把握し、年間指導計画に基づき、自宅学習に必要な基礎的・基本的な学習知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の弱点について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導すること

(4) 多様なメディアを利用した指導及びその評価

- ① ラジオ放送、テレビ放送その他多様なメディアを利用した指導及びその評価は、各教科の教員免許状を取得している実施校の教員が行うこと
- ② 多様なメディアを利用して行う学習を取り入れる場合は、計画的かつ継続的に提供し、高等学校教育の目標及びその水準の維持が図られるよう十分配慮すること
- ③ 多様なメディアを利用して行う学習を取り入れ、各教科・科目の面接指導の時間数又は特別活動の時間数の一部免除を行う場合、報告課題の作成等により、その成果が満足できると認められるものであるかを確認すること

(5) 試験及びその評価

- ① 試験は実施校の教職員の監督下で適切に実施し、その採点基準の作成及び評価は各教科の教員免許状を取得している実施校の教員が行うこと
- ② 試験は、通信制の課程で行う教育の一部であり、添削指導や面接指導における学習成果の評価とあいまって、単位を認定するために個々の生徒の学力定着度等を図るための手段であることを踏まえ、自宅試験の方法で行ったり、全ての教科・科目等において自由な成果物の提出により試験の替わりとしたり、試験問題が毎年同じであったりするなどの不適切な試験が実施されることがないよう、留意すること。なお、コンピュータやタブレット端末等を用いてオンラインでの試験等を実施する場合であっても、確実な本人確認や不正行為防止の仕組みを構築するなど、実施校の適切な監督下で実施すること

(6) その他

- ① 添削指導等の質の確保、向上のため、校内外における教員研修の機会の充実に努めること
- ② 特別な支援を要する生徒の実態等を踏まえ、特別支援教育に関する校内委員会の設置や実態把握、特別支援教育コーディネーターの指名、特別支援教育に関する専門的な知識・経験を有する教員等の配置、個別の指導計画や個別の教育支援計画の策定・活用、教員の専門性向上のための研修の実施等により、支援の充実に努めること
- ③ 不登校経験や中途退学その他多様な課題を抱える生徒の実態等を踏まえ、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを配置するなど、きめ細かな支援の充実に努めること
- ④ 進学・就職支援を担当する教職員やキャリアカウンセラーを配置するなど、生徒の社会的・職業的自立に向けた支援の充実に努めること

3. 施設及び設備に関する事項

- ① 実施校の校舎面積が通信教育規程第8条に定める基準を満たすよう努めること
- ② 通信教育規程第9条に規定する校舎に備えるべき施設（教室（普通教室、特別教室等）、図書室、職員室、専門教育を施すための施設）のほか、実施校の教育課程に規定される教科・科目等の授業に必要な実験・実習等のための施設及

び設備を備え、体育の授業に必要な運動場等を確保するとともに、これらが持つ本来の機能が十分発揮されるような環境づくりに努めること

- ③ 実施校が添削指導等を行うために設置する本校以外の施設や上記1(2)④の方法により添削指導等を行う連携施設についても、生徒を受け入れ、教育を行うための適切な施設及び設備等の環境が確保されるようにすること

i 実施校の校長の監督権が及ばないサポート施設の職員に添削指導等を行わせることが不適切であることは当然として、協力校についても、実施校の校長の監督権が及ばない協力校の教職員に、実施校の教職員に代わって面接指導及び試験等を実施させることはできない。また、技能教育施設についても、実施校の校長の監督権が及ばない技能教育施設の職員に、技能連携措置の対象となる教科・科目以外の教科・科目に関する添削指導等を実施させることはできない。

ii 添削指導等については、実施校の設置者が連携施設の職員に対して給与等を支払っているかどうかに関わらず、実施校の校長の監督下、その管理責任の下で行われることが必要である。また、このことは、単に契約書や委嘱状等の形式ではなく、実態に即して判断するべきものであることに留意することが必要である。

iii 本ガイドラインは、実施校において、高等学校通信教育の質の確保・向上のために留意すべき事項を定めるものであり、連携施設が独自に行う活動等について直接規定するものではないが、多くの連携施設において実施校の生徒募集等が行われている実態があることを実施校自らが認識していることや、実施校には、文書による取り決め等により連携施設との適切な協力・連携関係の確保に努めることが求められることに鑑みれば、実施校の責任として、生徒・保護者に対して不適切な説明が行われないようにすることが必要である。

iv ここでいう「自校の施設」とは、自己所有、借用のいずれかを問わない。また、他の学校等の校舎施設の一部を借用して自校の教室としているものも含む。

v 例えば、高等学校等就学支援金については、受給資格や支給額その他申請上の留意点等について、奨学金については申込資格・基準や返済義務等について、また、教育ローンやクレジット契約については返済内容その他消費者保護のために必要な事項等について、適切かつ明確な説明を行うことが必要である。